



明智光秀画像（部分） 1幅
安土桃山～江戸時代前期 本徳寺蔵（岸和田市）

侍烏帽子に白地の素襖をまとい高麗縁の上畳に座しています。顔つきは端正で、静かな面持です。明智光秀の容姿をうかがわせる唯一の絵画作品です。光秀の子との伝承をもつ南国梵珪が開山となった本徳寺に伝わりました。近年では、像主が光秀ではないのでは、という説も呈されています。謎の多い光秀の謎がさらに深まります。（NHK大河ドラマ特別展「麒麟がくる」にて展示【展示期間】9月18日～9月24日）

NHK 大河ドラマ特別展

麒麟がくる

2020.9.18(金)～11.3(火・祝)

明智光秀は主君である織田信長を討った「本能寺の変」を起こした人物として、最も知られる戦国武将の一人といってもいいでしょう。しかし、彼の人生は出自すらあいまいで、その知名度に反して多くの謎に包まれた人物ともいえます。本展では、明智光秀ゆかりの品々を一堂に会して、光秀の深層に迫ります。

まずは、プロローグとして16世紀半ば、戦国時代真ただ中の美濃を紹介します。主役は斎藤道三です。道三は守護土岐頼芸を追放し、美濃国を掌中にしましたが、やがて嫡男の義龍と争い没しました。



重要文化財 斎藤道三画像(部分)

1幅 室町時代後期 常在寺蔵(岐阜市)

【展示期間】10月14日～11月3日

現代において虻とも称される道三の肖像画です。鋭いまなざしが印象的です。

次いでテーマは明智光秀に移り、本章に入ります。本展では、大きく二つに分けて光秀に迫っていきます。

前半では、明智光秀、細川藤孝(幽斎)・玉(ガラシャ)などの光秀を巡る親近者、そして、織田信長や羽柴(豊臣)秀吉、長宗我部元親などの主君やライバルを紹介します。

光秀が所持・所用したと伝わる品々は、彼の劇的な幕切れが影響して多くはありません。わずかに残された作品を通じて、明智光秀のパーソナリティを想像していただければと思います。

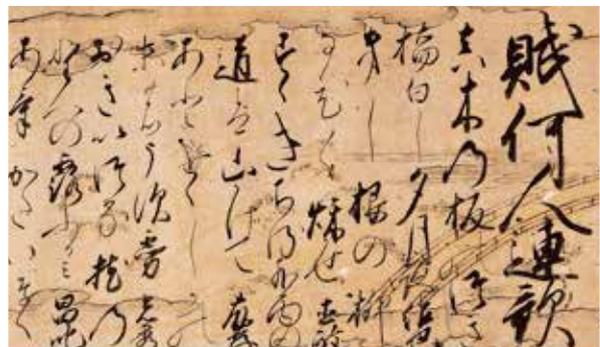


青磁香炉 銘浦千鳥

1口 中国・南宋時代 遠山記念館蔵

坂本城にあった本品を、山崎合戦の後、明智光春(秀満)が羽柴秀吉方に託したと伝わります。

光秀が歴史上に確かな足跡を残したとき、彼は足利義昭の家臣でした。その仲介役を果たしたのが室町將軍家に側近として仕える細川藤孝であった可能性は高いと考えられます。両者の親交は早いうちに確認でき、天正6年(1578)には、光秀は娘・玉(ガラシャ)を藤孝の嫡男である忠興に嫁がせました。



賦何人連歌百韻懷紙(部分)

1巻 天正2年(1574) 松井文庫蔵

【展示期間】9月18日～10月11日

天正2年におこなった連歌です。里村紹巴の発句にはじまり、藤孝や光秀も参加しています。

光秀は足利義昭の家臣として仕えながらも、織田信長と出会うと、彼にも仕えるようになります。元亀4年（1573）に義昭と信長が袂を分かち、光秀は信長方として義昭に敵対しました。この選択が光秀の運命を決定づけることになりました。



織田信長画像（部分）

1幅 安土桃山時代 大徳寺 総見院蔵（京都市）
 作者は狩野永徳とされています。天正10年（1582）10月の羽柴秀吉主催による信長の葬儀にあわせて制作された可能性が指摘されています。

後半では、織田信長の家臣として活躍する明智光秀の事跡を追いながら、本能寺の変、そして山崎合戦を取り上げていきます。

元亀2年（1571）9月の比叡山焼き討ちののち、信長から近江国志賀郡を与えられました。翌年にかけて光秀は坂本に城を築き、居城とします。ルイス・フロイスは「日本史」に、坂本城は豪華壮麗で、安土城に次いで有名な城であったと書き残しています

天正3年（1575）9月、光秀は信長から丹波方面への出陣を命じられます。信長の司令官として丹波侵攻に着手しますが、八上城主・波多野秀治の裏切りや、本願寺との戦いのため畿内

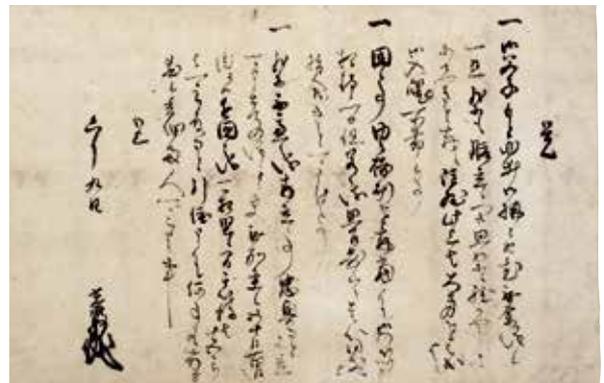


坂本城跡出土遺物

1括のうち 16世紀 大津市埋蔵文化財調査センター蔵
 出土品の中には国内外の陶磁器のほか、細川藤孝の勝龍寺城と同範の軒丸瓦もみられます。

転戦を命じられるなど、その道のりは平坦ではなく、天正7年にようやく丹波を平定しました。

この頃には、信長に最も評価される家臣となりましたが、そんな中で起こったのが天正10年（1582）6月2日の本能寺の変でした。本能寺の変を起こした理由はいまだわかっていません。謎であるがゆえに、遺された資料から様々な説が唱えられています。



重要文化財 明智光秀覚条々

1通（天正10年（1582））6月9日 永青文庫蔵

【展示期間】9月25日～10月11日

本能寺の変後に味方となるよう光秀が藤孝に宛てた書状。剃髪した藤孝に翻意を促しますが、藤孝は光秀に与しない道を選びます。

最後に、エピローグとして、光秀の子孫たちや、のちの世の光秀を物語る資料を紹介いたします。展覧会を通じて、真実の明智光秀をみつけていただければと思います。

加藤栄三・東一記念美術館

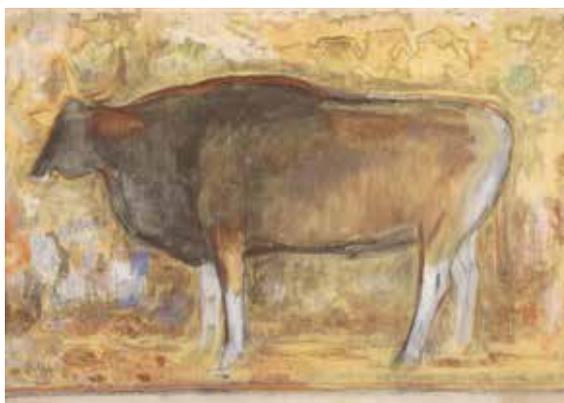
加藤栄三・東一 素描・下絵・本画

2020.9.15(火)～12.20(日)

絵画の表現と技法、そして素材には密接な関係があり、「日本画と洋画の違い」を問うてくる来館者に対し、その区別を一言で説明することは困難です。

技法だけをとれば日本画は、天然に産出する鉱物を砕いた岩絵具、動植物から抽出した顔料、ガラスのフリットに色を閉じ込めた新岩絵具を、動物の骨、皮などから抽出した膠^{にかわ}を接着剤として描きます。膠を接着剤とした絵画は『膠彩画』とも呼ばれ、これを洋画では『テンペラ画』として5世紀頃から15世紀頃までヨーロッパを中心に描かれてきました。

では、日本画の定義を材料以外に求めるなら、その制作過程が日本画と洋画を区別する一番わかりやすい方法ではないかと考えます。オーソドックスなスタイルとして日本画の制作過程は、現場で取材したスケッチや資料をもとにコンセプトを明快に表すためのドローイング（素描）を何枚か描きます。これが下絵へとつながり、小さい下絵から大きな下絵を作り、本画と同じサイズの大下絵が本画（完成作品）を描く基になります。



「BANTING（大下絵）」加藤栄三

私たちが美術館や画廊で鑑賞する作品は、そのほとんどが本画（完成作品）ですが、一つの作品が完成する裏には、多くの素描・下絵が描かれています。平成3年5月の開館以来、栄三・東一両先生のご遺族はじめ多くの方々から作品のご寄贈をいただき、素描、下絵に振り分けられる作品が約5,000点余となりました。素描の中でも本画を仕上げるまでに描いた貴重な草稿作品が多く存在し、作品が完成するまでの制作過程が検証できる展覧会の開催が可能になりました。

題材が作家を成長させる

作家が心惹かれた題材に出逢った時、その感動をいかに表現するか、自らが得意とする技法と使い慣れた材料の中から五感を生かしセレクトしていきます。しかし、未知の感覚に出逢った時、それらすべての経験は無駄になり、新たな表現方法を模索しなければなりません。それが描き手の成長となり、作家に新しい思考と技法を与えてくれます。題材を描くのではなく題材から学ぶことが作家を成長させる要因だということを作家は理解する必要があります。

加藤栄三は風景画や動植物画を主体に制作を続けてきましたが宗達の風神雷神図屏風を見た時の感激と嬉しさが忘れられず日本の古典という題材に挑戦していきます。

加藤東一は生と死に関して漠然と考えていた時、兄：栄三の死をきっかけに人間シリーズを描き始めます。

本展では、絵画の制作過程を系統的に展示し、作者がいかにモチーフと対峙し、試行錯誤を繰り返しながら作品を完成させていったか、その息づかいや眼差しを感じ取っていただけるよう心がけました。完成作品では見られない作家の心の動きを感じ取ってください。

加藤栄三・東一記念美術館

はっ・とび2 伊藤髟耳とその仲間たち

2020.10.20(火)～12.20(日)

2002年(平成14)日本美術院同人^{いとうぼうじ}伊藤髟耳先生の日本画グループ『はっ・とび』が研究会として正式に立ち上がりました。『はっ・とび』とは“はっ”という意気込みを表した掛け声で、今の自分から一段上に飛びたいという気持ちを表したものです。自分の目と手を使い写生を繰り返すことで見えてくるものを、ゆっくりではありますが、それを自分の中で消化し制作してきました。

「伊藤髟耳のかんがえていること」から抜粋

『はっ・とび』というグループを18年間続けました。毎年、各地の小さな美術館を中心に作品を発表してきました。小さなグループが発表する場所を探すのは容易ではありません。その勉強を後押ししてくれたのが京都ギャラリー鉄斎堂の川崎正晴さんでした。2年に一度、7回の展覧会を開催させてもらいました。

私も感じ始めたことですが、川崎さんより、「もっと取材に時間をかけ、写生を大事にし、作品を描く習慣をつけていかななくてはいけない」と指摘されました。

基本的に私は題材を自分から選ばないようにしてきました。人からアドバイスがあった題材、偶然出逢った題材、どの題材も自分にとって絵描きとしてよい勉強になりますので、大事にしていきたいと思っています。

題材から教えてもらうのですから、人の目を気にして選ばないようにしてきました。

題材によっては理解するまでの時間が必要です。自分の能力もありますが、何回も写生を繰り返す習慣をつけてきました。

簡単に描いたスケッチから時間をかけて描いたものまで、自分にとって、どれも絵を描くときには大事な資料になります。

一度仕上げた作品でも取材をつづけ、もう一度描いてみるという企画を立てました。しかし、はっ・とびの仲間には理解されなかったようで18年間続いた活動はここで一応終わりました。

『はっ・とび2』のスタート

私たちは普段から鉛筆を使うことが多く、絵を描く時も鉛筆を使います。昔から日本の文化で大事にしてきた手の力。それを伝える筆。線を描く時、出来るだけ細く、一定の細さで筆を動かします。緊張します。

慎重にゆっくり描く線には描く人の“気”が籠っているようです。絵の力に大事な線になっているはずですが。この線にはゆらぎがあり、生き生きとしています。



「山のふもとで」(部分) 伊藤髟耳

大下図の最後は鉛筆ではなく筆の縁で締め括りたいと思っています。

「日本画を描き続ける覚悟をもっとつける。」

「写生をもっとしっかり描く習慣をつける。」

「大下図を描くことで画面を整理する。」

「細い筆の線の力を認識してゆくこと。」

“日本画とはいかなる絵画表現か”を再確認するという意味で写生から大下図を作り、本画を描くという勉強会を始めました。これが『はっ・とび2』のスタートでした。

日本画という絵画表現について、もう一度『はっ・とび2』のメンバーに理解してほしいと願っています。

戦時下の接客向上運動

昭和17年ありがとう運動の展開(後篇)

社本沙也香

【凡例】

- ・引用中の単語および固有名詞の漢字は、当用漢字に置き換え、仮名遣いは歴史的仮名遣いのままとした。また改行は「/」で示した。
- ・〔 〕：筆者注
- ・本稿中の写真はすべて近藤龍夫氏撮影。一部、部分を拡大して掲出した。

東京における運動

岐阜市に先立つこと1ヶ月、東京府（当時）では昭和17年（1942）7月8日から14日まで「ありがとう運動」が実施された。

また東京市（当時）では同時期に、「親切感謝週間」という活動を行っている。これは、市動員局生活指導課を主管として府市警視庁と大政翼賛会府市支部が共同主催し、7月8日から18日までを「親切感謝週間」と位置付け、その前の1日から7日の期間、市区職員に親切感謝の実践を求めたものである（5）。この週間は、「商業報告会東京府本部の「ありがとう運動」に歩調を合せて」（6）決定したもので、「ありがとう運動」が先行していた。

なお、当時の東京市長・大久保留次郎などが、これらの活動はドイツで行われていた親切運動を参考に企画したと言及しており（7）、日独伊三国同盟（昭和15年9月調印）に伴う国際関係への意識が伺える。

東京府本部の「ありがとう運動」

東京府における「ありがとう運動」の内容は、商業報告会東京部本部が開催翌月に出版した『「ありがとう運動」実施報告書 第1回』（以降、『報告書』）から知ることができる。それによれば、目的は「銃後国民生活ノ明朗化ヲ図ルタメ商業者ノ販売時ニ於ケル接客態度ヲ向上スルト共ニ量目、価格等ヲ厳守」すること、そして「一億一心ノ総力戦体制確立ニ資」すること

であった。

そのための活動として①運動の趣旨の徹底（合同朝礼式）、②「ありがとう」の実践、③量目の正確、④価格の順守、⑤情実抱合せの絶滅、⑥適格で親切な配給、⑦優良店舗の表彰があげられている。⑦では、町会や隣組委員の投票によって選定され、八百屋・魚屋・米屋など1400軒が優良店舗として表彰された。また活動内容は必ずしも統一されず多様な展開を見せ、本部もそれを推奨したようである。

岐阜市での実施内容

岐阜市における「ありがとう運動」は、おおむね『報告書』に掲載されている実施要領（運動実施要項および指導要領で構成）に即して行われたようである。当時の新聞報道とも照らし合わせながら、その内容を探ってみよう。



【伝単拡大】

【写真3】

【写真3】では、店頭で商品の目方（重さ）を計測している。③量目の正確を示すためのもので、市内8ヶ所で計量器などを備え付け、商業報国会の推進員が、買物客に量目計測サービスを行った（8）。『報告書』では、量目不足や価格の不正について、役員や指導員が「親切に指導」するよう促しているが、岐阜市では「厳重な経済取締も行ひ量目不足、価格未揭示、売惜みその他形式違反の如き微罪なものでもいやくもこの運動の精神に反するものに対しては断乎検挙処分する方針」（岐阜警察署長の談話）（9）であった。

次に掲示物に注目してみたい。【写真4～7】はすべて商店のショーウィンドウを撮影している。【写真3～5】に見える宣伝用印刷物（拡大参照）は「ウキンドー用伝単」として、東京府本部から配布されたものである。「五寸五分丸〔約16.7cm〕の二色刷りの美しい伝単」(10)で、報国会員2店に1枚の割合で配られた(11)。【写真5】には、「岐阜警察署」と「商業報国会岐阜市支部」主催と表記したポスターが飾られている。【写真2】（前篇掲載、岐阜穀物小売商業報国会）のような垂れ幕の例もあり、支部・組合や店舗ごとに工夫を凝らしたディスプレイを行った。



【写真4】



【写真5】



【写真6】



【写真7】

また大型店舗では、運動に呼応した独自の活動も行われた。柳ヶ瀬にあった丸物百貨店では、催し場で違反の抱合せ商品を展示して示したり（玩具と菓子、ビールと昆布、アルミ鍋とざるなど）、配給菓子を展示して、好みの菓子への投票などを行っている(12)。また百貨堂では、全従業員から標語を募集し、「ありがとう言うて言はれて明るい銃後」が一等に選ばれた(13)。

おわりに

以上、ありがとう運動の概要を探ってきたが、主催者側が残した運動の趣意や目的を検討すると、当時市民には、戦時体制下で次第に厳しくなる物資不足に対する不満があり（加えて戦争そのものへの社会不安もあるだろうが）、行政側もそれを問題視していたことが読み取れる。一方で、人々が日々の生活を少しでも良くするために、工夫や努力を重ねていた様子を読み取ることができた。

本稿では、昭和17年岐阜市の運動に焦点を絞ったため、他の時期や他地域で行われた「ありがとう運動」（名称は各地で異なる）および類似運動との比較が不十分であり、今後の課題としたい。

《注》

- (5) 東京市報道課主事 高山福良「親切感謝運動とその反響」（『宣伝』昭和17年10月号、日本電報通信社）
- (6) 同上。
ただし、これら一連の活動は厳密に区分されたわけではなく、東京市では同年11月8日から14日を強調週間として、第2回親切感謝運動を開催しているが、「ありがとう運動」もその一部に挙げられている。
- (7) 東京市長 大久保留次郎「何故親切運動を起したか」（『市政週報』170号、昭和17年7月、7月8日夜に行われた講演会要旨）、「ありがとう運動」（樺太14巻9号、昭和17年9月）、高嶋米峰「親切感謝を讀す」（真理8巻8号、昭和17年8月）など
- (8) 昭和17年8月9日（日）3面、岐阜合同新聞
- (9) 昭和17年8月8日（土）2面、岐阜合同新聞
- (10) 『「ありがとう運動」実施報告書 第1回』（商報資料第5輯、商業報国会東京府本部、昭和17年8月）
- (11) 丸の中には下記の文言が書かれている。
「物を売る時は／心から有難う！／物を買ふ時にも有難う御座います
／有難う！有難うで／銃後のニッポンを／明るく朗らかに／しませう」
- (12) 昭和17年8月9日（日）3面、岐阜合同新聞
- (13) 昭和17年8月14日（金）3面、岐阜合同新聞

《主要参考文献》

- ・『「ありがとう運動」実施報告書 第1回』（商報資料第5輯、商業報国会東京府本部、昭和17年8月）
※なお、同書に掲載されている「「ありがとう運動」の実施要領」には東京での開催期間は「7月7日から14日」とあるが、実施後の記事などから考えて、「8日」の誤植と考えられる。
- ・『岐阜市史 近代 通史編』（岐阜市、昭和56年3月）。

歴史博物館の展示

11月28日(土)
～令和3年3月7日(日)
ちょっと昔の道具たち

分館 加藤栄三・東一 記念美術館の展示

9月15日(火)～12月20日(日)
加藤栄三・東一
素描・下絵・本画
12月22日(火)～
所蔵作品展

分室 原三溪 記念室の展示

9月15日(火)～10月18日(日)
三溪の書画
10月20日(火)～11月29日(日)
明治・大正の菊花展

利用の御案内

■開館時間

午前9時～午後5時
(歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館の入館は午後4時30分まで)
※特別展開催中は変更することがありますのでご注意ください。

■休館日

毎週月曜日と祝日の翌日、年末年始(12月28日～1月3日)
(月曜日が祝日の場合はその翌日)
※特別展・企画展開催中は変更することがありますので、ご注意ください。
※令和3年1月11日(月・祝)までは無休です(休室日あり)。

■観覧料

◎歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館
歴史博物館総合展示、加藤栄三・東一記念美術館 (団体は20人以上)
高校生以上……………310円(団体250円) 小中学生……………150円(団体90円)
両館共通で観覧される場合
高校生以上……………520円(団体410円) 小中学生……………260円(団体150円)
※特別展は、その都度料金を定めます。 ※「麒麟がくる 岐阜 大河ドラマ館」は別料金です。
◎下記の方は無料でご観覧いただけますので、①②の方は証明できるものをご提示ください。
①岐阜市在住の70歳以上の人(一部特別展を除く)
②身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳、療育手帳の交付を受けている人、
および その介護の方1人
③家庭の日(毎月第3日曜日)に入館する中学生以下の方(特別展を除く)
④③に同伴する家族(高校生以上)の方(特別展を除く)
⑤岐阜市内の小中学生(特別展を除く)
◎原三溪記念室は、無料でご観覧いただけます。

■交通案内

〈歴史博物館、加藤栄三・東一記念美術館〉
JR岐阜駅・名鉄岐阜駅から岐阜バスにて長良方面行きに乗り、「岐阜公園歴史博物館前」で下車、すぐ東に歴史博物館があります。
岐阜公園内ロープウェー乗り場すぐ隣に加藤栄三・東一記念美術館があります。
お車でお越しの際は、岐阜公園駐車場、大河ドラマ館臨時駐車場をご利用ください。
詳しくはホームページをご覧ください。
〈原三溪記念室〉
岐阜バス茜部三田洞線 下佐波及びカラフルタウン行きに乗り、「下佐波」で下車、徒歩2分
岐阜バス茜部三田洞線 もえぎの里及び高桑行きに乗り、「もえぎの里」で下車、徒歩すぐ

博物館だより No.106 2020.9

編集・発行 岐阜市歴史博物館

(分館) 加藤栄三・東一記念美術館

(分室) 原三溪記念室

〒500-8003 岐阜市大宮町2-18-1

〒500-8003 岐阜市大宮町1-46

〒501-6121 岐阜市柳津町下佐波西1-15 もえぎの里2階

☎058(265)0010

☎058(264)6410

☎058(270)1080